

設立年月 2013年10月
メンバー数 20人
代表者名 横原 節男(かしはら・せつお)
連絡先 〒729-5121 広島県庄原市東城町川東1161-18
電話 08477-2-4544 FAX 08477-2-4546
メールアドレス kuukan-ssk@mx41.tiki.ne.jp
ホームページ <http://matidukuri.holy.jp/>
facebookページ <https://www.facebook.com/YRMPtojo/>
<団体のミッション>
過疎と人口減少等の影響による地域コミュニティの衰退に危機感を持ち、将来のコミュニティを維持するため、地域の宝である「国登録有形文化財建物」を活用して地域コミュニティの再生に取り組んでいます。



文化財建物を拠点として 地域コミュニティの再生

.....地域資源を活かしまちを創造する職能集団の会【広島県庄原市】



団体設立経緯

「まちづくり～歴史的建造物の保存再生に携わる」
地域を見つめ直しながら街に変化を与えようとの思いで、町内の建設関係者を中心に平成3年にグループを立ち上げました。市街地の町並みの景観維持を目的として修景活動を中心取り組んできました。その活動の延長で、町内に多く残る歴史的建造物を何らかの形で「甦らせてみよう」と考えました。その目的に向けて前記グループを中心として、地域住民や地域外の建築士、芸術家、サポートー・ファンを巻き込んで平成25年に団体を設立し、現在に至っています。

地域概要

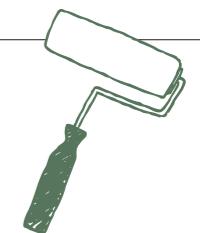
庄原市東城町は中国山地の岡山県と鳥取県との県境に位置します。市街地の街道は、国土交通省「夢街道ルネサンス」に認定された風情のある町並みで、歴史のある町割り、街路、商家、町家が残り、文化歴史的に価値の高い地域です。しかし、かつての城下町として栄えた面影を残す一方、道路工事による歴史遺産(建造物・景観)の喪失、空き地・空き家の増加、人口流出による過疎化等が進み、往年の活力を取り戻すことに試行錯誤している町でもあります。

活動に至った背景や理由

「甦らせる！」私たちのまちづくりのテーマです。私たちが、数年にわたり活用を模索していた建物は、築85年の地元企業が所有する木造の旧自治寮群(社員住宅)です。空き家になる40数年前は、その建物群には400名近くの居住者がおり、近隣住民と共生していた「一つのまち」でもあり、地域コミュニティの中心でもありました。その貴重な歴史的建造物を再び地域コミュニティのシンボルとして甦らせるため、地域住民や外部の様々な専門家がファン、サポートーとして集まり、建物の再生を始める事になりました。

ヤマモトロックマシン旧自治寮とは…

創業100年を迎えた地元企業の工場に併設された建物群で、1912年～1916年にかけて建築された木造の従業員寮群です。和洋折衷の外観の木造2階建て管理食堂娯楽室棟を中心にして、建築的にも貴重な洋風外観を有し内部は和式の木造3階建ての家族寮、昔の小学校建築のような外観で内部は和式の木造2階建ての独身寮、倉庫棟、便所棟2棟、洗面所棟2棟、漬物専用棟、消防車格納庫、水浄化槽、男女別浴場(道路立退きの為4年前解体)、防火用水を兼ねた池や広大な庭園等々で構成された大規模な施設群です。工場棟5棟と共に管理食堂娯楽室棟、家族寮、独身寮の3棟が2016年2月、国登録有形文化財として指定されました。



活動内容と成果

建物の周辺から見ると洋風の洒落た外観で手入れされた庭園があり、これは面白い事になると思い、これら建物群を「何とかしてみるか！」との思いで活動を始めましたが、いざ建物内部に入ってみると規模が大きく、40数年間も空き家だったことから、ほぼ不用品の物置と化していました。そして、建物全体の傷みも少々の事ではありませんでした。これらを「修復再生する」「活用を考え使う」「文化財としての価値観を位置づける」等々…と思うとタメ息が出るような始まりでした。しかし、国登録有形文化財として指定を受けた影響もあり、今までの活動で築いてきた様々なネットワークからたくさんの人々の協力を得て活動が進み始めました。

私達の活動「集い学ぶ」「集い使う」「集い守り再生する」「地域を見つめる」等の取り組みを紹介します。

「集い学ぶ」(修復再生する)

この建物群を活かして地域コミュニティを再生するために、当時住んでいた人達やこの建物を知る地域の人達、まちづくりや歴史的建造物に興味が有る建築士、ヘリテージマネジャー等の専門家や芸術家等とワークショップやセミナー、シンポジウムを行いました。

「地域を見つめる」(文化財としての価値観を位置づける)

会の代表が、町内の人一人でも多くの人に旧自治寮の歴史や活用策について知ってもらい活動のサポーターやファンになって頂く事などを目的に、自治振興区活動の中の住民講座「今昔講座」に出向き、活動のプレゼンを行いました。この講座は、町内の町並み、歴史的建造物、文化財を通じて町内外の文化歴史を学ぶ講座で毎回各種専門家を招き学んでいます。

「集い学ぶ」(修復再生する)

建物を活用するためには修復をしなくてはいけません。活用建物が登録有形文化財であるため、様々な制約を受けます。そこで文化財建物等の修復の専門家でもある奈良女子大学の藤田連盟児教授を講師としてお招きし、建物の修復方法や保存活用方法などの学習を公開セミナーとして行いました。午前中に建築士や技能士、ヘリテージマネジャーや一般市民も含めて70数名参加して建物の修復作業を行った後に、セミナーを開催しました。



建物耐震セミナー



シンポジウム



今昔講座



藤田教授 公開セミナー



「集い守り再生する」(修復再生する)

拠点とする建物の修復作業を実施

文化財建物の修復作業体験として位置づけ、文化財建造物修復専門技能者の指導のもと大工、建築技能者、建築士、ヘリテージマネジャー等と地域住民も含めた一般市民も参加して7月に修復作業を行いました。作業終了時には文化財建造物修復専門技能者による工事の解説を受けました。具体的には、活用を進めている旧独身寮の部屋の建具の補修や障子張り作業と、非常階段として使用されていた木製屋外階段の解体復原作業を行いました。一般市民の参加も想定していたので、事前に会員や地元協力者により障子等の建具を水洗いし建具の不具合も修正しておきました。木製屋外階段は、手作業で解体しながら加工組手の確認作業や寸法取りを行い、新しい材料で現状通りに組み立てられるよう技能者に下加工してもらいました。当日は、参加者による簡易な手作業と木材の防腐塗装作業を行いました。作業後の昼食は、この建物の活用を待ち望んでいる地元住民が作業参加者へのおもてなしとして、実演で地元名物の手打ちそばを提供してくれました。昼食会は地域外からの協力者と地域住民が繋がるきっかけをつくる機会でもあり、住民同士も一つの目的で繋がりあえる良い機会でした。



「集い使う」(活用を考え使う)

建物活用イベント開催

建物活用と地域が共生するための取り組みとして、文化財建物を一般公開して4月にイベントを開催しました。これは、建物を活用する為に地域コミュニティがどう関わるか、公開活用して地域に賑わいが取り戻せるか等々の仕掛けであり、建物活用に興味を持っている人などに参加してもらう事を目的としました。イベント協力者に建物内の各部屋を自由に活用してもらい、芸術展、ものづくり体験ワークショップ、地域食堂等を開催しました。またこの機会に来訪者や事前申込者を対象として、建物の見学会とまち歩きも行いました。

11月にも街道で開催されるイベントに協力して、「ヤマモトオーブンフェスタ」として芸術展を主とした建物公開イベントを開催しました。今回のアート展は、春に行った時より新規のサポートやファンが手伝いをしてくれたお蔭で新規出展者や里帰り出展者、地元東城高校生の参加協力等もあり新たな展開が出来ました。

また全国の建物を撮影し各地でパネル展を開催している「まちかどの近代建築写真展実行委員会」の協力もあり、東京より主宰者が来られ、「全国のなつかしの学びやの建物たち・学舎建築写真展」と文化財建物を活用した事例等の講演や、参加者も交えたギャラリートークを開催しました。活動も回を重ねるごとに、多方面に拡がりをみせ始め、建物を市民ギャラリーとして活用できる目処もつき、創作活動の工房等などとして使用したい創作家や出展を希望する芸術関係者の来訪も増え、アートイベントとして定着が出来つつあり、文化とアートでコミュニティを繋ぐ位置づけもできるようになりました。

これらの活動により、メンバー間で貴重な建物を地域のコミュニティを再生させるシンボルとして活かさなくてはならないという認識も確認できました。



建物内で地元の女性達が着物洋服等リフォームの作業場として活用

建物内の管理食堂棟では、地元の女性グループが、サロン的な活用でおしゃべりや将来建物内で家庭的な食堂の開所も見据えた料理の試作試食会、町内のイベントに供出する洋服のリフォーム作業などを行っています。また、この建物内には和室2部屋と浴室、トイレ、台所が備わっていますので短期宿泊体験にも活用ていきたいと思っています。現在、地元女性グループの拠点として機能しつつあり、彼女たちは自主的に建物内清掃や草取りなどを行ってくれています。



建物や地域を紹介する冊子を作成

活用建物や「まち」をひろく一般に知って頂く目的で、建物の解説や町中の建物等を巡る散策マップを収録したガイドブックを2,000部作成しました。その一部は東城のまちや文化財建物を知ってもらう為の学習用として、庄原市教育委員会を通じて、市内の小学校19校、中学校7校、図書館や分館に寄贈しました。

課題と解決策

国登録有形文化財であり、建物自体の傷みが激しいことから、修復が一番大きな課題です。建物の所有者は利益を生まない建物にはお金をかける余裕はないとのことなので、借用している私たちが活用するところを中心に修復作業を進めていくのはもちろんですが、外部の人の協力を得なくてはなりません。多様な人に作業に協力していただけるように、学術関係者や建築関係者の協力を得て、文化財を実地で修復しながら学習も出来るという方法を考案してセミナーとして実施することにしました。今までではただの歴史的建造物との認識でしたが、国登録有形文化財になると修理をする苦しみ、活用をする苦しみ、住民を振り向かせる苦しみが多くなりました。特に多方面の人々が興味を持ってくれた為に、その対応にあたることが大きくなりました。しかしそれらの課題に対して、活動に協力してくれている地域内外のサポートや学術、建築、芸術、まちづくり等の専門家が助言をくれたり先導して関わってくれたりして、課題の解決に対処してくれます。そのサポートのお蔭で専門性を持つ新たなサポートが生まれるきっかけにもなっています。

「集い開発する」

平成29年2月、活用に向けて建物内で地元自治会とジビエ(有害鳥獣)料理の開発試食会を開催しました。建物内で商業活動も行うことを想定した取り組みです。中山間地域のどこでも課題となっている有害鳥獣(主にイノシシ)の処分対策の一つとしてジビエ料理を思い付き、建物内の食堂を活かして地元の名物料理として開発し、一般に提供し商売としてなりたせようという試みです。当日の試食会では地元住民や活動協力者、庄原市長も交えて今後について意見交換をしました。その中で現在工事中の庄原市のジビエの処理加工施設が完成した際には、直接ジビエ肉を提供して頂ける運びとなりました。



今後の予定

修復には多大な費用が発生します。特にシンボルである木造3階建ての家族寮の屋根の傷みが激しく、現在、県・市行政と協議を始めています。国登録有形文化財建物を修理するだけでは、国・県・市から費用負担をしてもらえない事は理解でしたが、行政と話をするうちに目的軸をしっかりと定めれば、何らかの形で費用負担が考えられることがわかりました。今後は活用軸・管理運営体制軸・コミュニティ軸・観光軸等を定められるよう行政と連携しながら、自前でも費用負担ができるよう商業活動も考えていきたいと思います。

一方、閉鎖された独自の文化と歴史を持つ中山間地域に「ヨソモノ」の協力を仰ぐことは大きな冒険でもありました。私たちも、地域に対して情報も少なく、しがらみの無い「ヨソモノ」に、あえて協力を求め、地域に刺激を与える効果を期待しました。今後も、彼らに活動の提案、広報、協力者の開拓を期待します。その延長で各種専門家とネットワークを構築して協力体制を築いていかなければと思っています。